



すっかり秋が深まりましたね。今年度も半年が過ぎ、のびのび通信の発行も6回目となりました。今回からは3回シリーズで『ことばを育む』というテーマを、言語聴覚士等の視点でお伝えしたいと思います。

＜ことば＞3つの要素

①

言えることば
(音声言語・
speech)

例えば、「イヌ」のように、音声言語として口から出ることばのことです。発音は、口唇や舌を細かく動かすことを含めた体の使い方、体の発達に支えられています。

②

わかることば
(言語・概念)

『イヌはワンワンとほえる』など、イヌについて知っていること。実際に見たり触ったりする経験を重ねて、「イヌ」がわかっていきます。

③

コミュニケーション

人に伝えたい気持ち、人に向かう気持ちのことです。例えば、「あ！イヌがいたー！」という発見や気持ちをわかってほしくて声を出します。

ことばの意味がわかり、発音する力があっても、伝えたい気持ちがなければ、＜ことば＞は、音として、口から出てきません。②、③がそろって初めて、①の＜ことば＞が生まれるのです。①ばかりに目を向けず、②や③を育てることも大切です。

ことばの発達には、それを支える土台が大切となります。
裏面『ことばのビル』の図をみてください。

5階以上は直接「ことば」に関すること

「ことばが言える」のはビルの最上階です。土台となるものができているないと、ことばはつくれません。心と体、両方が育っていくことが、「ことばの発達」につながります。

4階は手を使う

「手は外部の脳である」といわれるように、外界を知り働きかけるうえで、手は重要な役割を果たします。お手伝いや普段の生活動作など、手を使うチャンスはたくさんあります。手指を使う遊びを一緒に楽しむのもよいですね。

3階はこころの安定

情緒の発達や心の安定は、安心できる人との関係の中で育つものです。自分の気持ちがわかってもらえる安心感、ホッとできる時間などを大切にしましょう。また、遊びは子どもにとって体とこころの栄養です。楽しい遊びや経験ができるとうれしいですね。

1、2階はしっかりした土台作り

1階は「規則正しい生活」、2階は「体の発達に沿った十分な運動」です。『のびのび通信 7・8・9月号』にも、親子遊びの内容が記載されていましたね。ぜひ、親子で楽しんでみてください。

(参考資料)

「健診とことばの相談」「1、2、3歳 ことばの遅い子」「ことばをはぐくむ」
中川 信子著 ぶどう社

今月のあそび

毎月、家庭でできる遊びを紹介します。



今回のあそびアイテム
秋の自然



『子どもの遊びポータルサイト ミックスじゅーちゅ』
自然遊び

秋も深まり、公園やお散歩に出かけるのに気持ちがよい季節です。どんぐりや松ぼっくりを拾って遊ぶのも楽しいですね。でも、どんぐりを持って帰って遊ぶ前には、しっかりと処理をすることをおすすめします。そのまま置いておくと、中から白くて小さい芋虫が出てくることがよくあります。あれは、ゾウムシの仲間の幼虫だそうです。そうならないためには、適切な処理をしてから保管しましょう。2つの方法を紹介します。

- ・煮沸・・・お鍋にお湯を沸かして、茹でます。(どんぐりの大きさによって3分～8分くらい)
 - ・冷凍・・・袋に入れて冷凍庫へ。2、3日～1週間くらい冷凍しておくくと安心です。
- (ちなみに、水につけて浮かんだどんぐりには虫が入っていることが多いようです。)

どちらの場合も、風通しのよい日陰でしっかりと乾燥させる。(天日干しだと割れてしまします。)

ことばのビル

ことばが発達するために必要なことをイラストにしたものです。

